



	<p>実習のまとめ (古賀玉緒、杉浦絹子、前田幸、山田恵、新郷朋香)</p>
テキスト	<p>堀内成子編集「(助産学講座 5) 助産診断・技術学Ⅰ」, 医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 6) 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」, 医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 7) 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩・産褥期」, 医学書院 石井邦子編集「(助産学講座 8) 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期」, 医学書院</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>日本産婦人科学会他編・監：産婦人科診療ガイドライン 2023, 日本産婦人科学会事務局 病気がみえる vol. 10 産科 (第 4 版): 医療情報科学研究所編, メディックメディア 北川真理子他編：今日の助産マタニティサイクルの助産診断 (第 4 版), 南江堂 石村由利子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 (第 3 版), 医学書院 エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠・分娩期・産褥期 2020—, 2020, 日本助産学会 妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて～, 公益社団法人 日本産婦人科医会, 中外医学社</p> <p>その他、必要に応じて紹介します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>実習記録 (レポート) に関しては、適宜フィードバックします。 実習最終日もしくは実習後に面談を行い、振り返りをします。 全ての実習終了後に行うまとめ発表会にて学びを共有します。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>妊産褥婦と新生児のアセスメントとケアに関する知識と技術を要するため、基礎科目・専門科目・支援科目および助産学基礎実習で学習したことを復習して実習に臨んで下さい。また、「看護職の倫理綱領」や「看護の倫理原則」を改めて確認し実習に臨みましょう。 本実習は期間・時間ともに長期で不規則になることが考えられるので、健康管理に留意して下さい。 言動・身だしなみにはくれぐれも注意してください。</p>